

入研協 第 25 回大会
公開討論会「ＡＯ入試－課題と展望－」用レジュメ
2004/06/03 松山全日空ホテル

東北大学アドミッションセンター
鈴木 敏 明

1. ＡＯ入試の一般論？
 - ・ ＡＯ入試って何？
 - ・ ＡＯ入試の導入状況
 - ・ ＡＯ入試の定義はあるのか？
2. ほぼ出尽くした論点 ～メリット，デメリットなど～
 - ・ 高校教員の側から
 - ・ 高校生（受験生）の側から
 - ・ ＡＯ入試実施大学の側から
3. 東北大学のＡＯ入試
 - ・ アドミッションポリシー
 - ・ 一般選抜，推薦入学との関係
 - ・ ことさら奇抜さを追求しない選抜方法 ～Authentic & Orthodox～
 - ・ きめ細かい広報活動
 - ・ 合格決定後，入学までの処遇
 - ・ 入学後のサポート ～ＡＯ入試Ⅰ期入学者の事例～
 - ・ 入学者の追跡調査
4. ペーパー試験主体の一般選抜との対比
 - ・ 信頼性，妥当性，公平性，コストパフォーマンスの問題
 - ・ 適性の多面的評価は，どこまで拡張すべきものなのか？
 - ・ 新しいタイプの測定・評価法開発の必要性
5. 試行期間の終了，そして入試の主流となる時代の幕開け？
 - ・ 平成 19 年度入試以降の展開 ～両極化の一層の進行か？～
 - ・ 必要な条件整備とは？

入研協 第25回大会 公開討論会

「AO入試—課題と展望—」

2004/06/03 松山全日空ホテル

東北大学アドミッションセンター

鈴木 敏 明

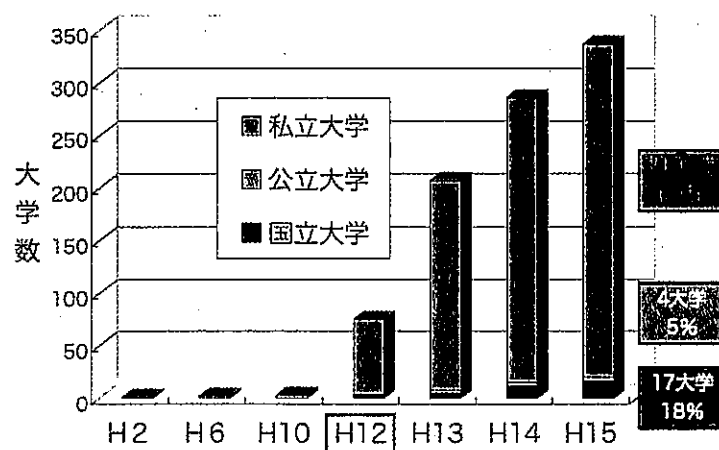
1. AO入試の一般論？

AO入試って何？

- Admissions Office入試 ← 米国の大学のA.O.の名称を利用
- 中教審第二次答申『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について』〔平成9(1997)年6月〕
 - 丁寧な選抜の実施などの入学者選抜方法の多様化，評価尺度の多元化の必要性を強調 → AO入試の奨励
 - 日本型アドミッションズ・オフィスの整備 → AO入試の導入に積極的に取り組む大学から順次これを進めるべきこと

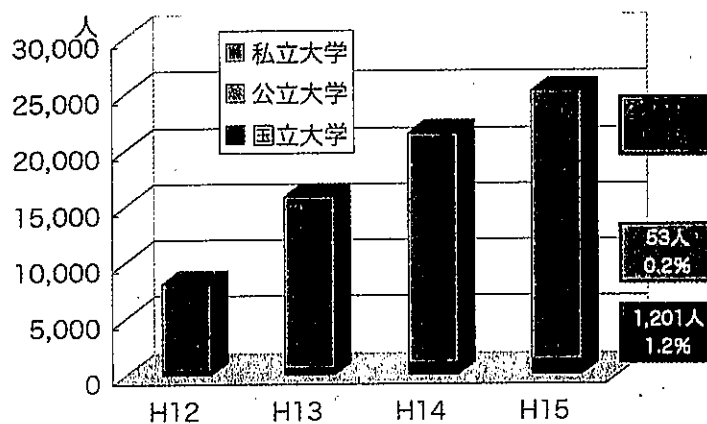
3

AO入試の導入状況 ～実施大学数～



4

AO入試の導入状況 ～入学者数～



5

AO入試の定義はあるのか？

- 「ある」と言えば、ある。
 - 『大学に適合的な能力、意欲を持つ人を、多元的評価尺度を取り入れた多様な方法によって選抜する入試』
 - ↓
 - 端的に言えば、「何でもあり」状態
 - ↓
 - 「まともなAO入試」と「怪しいAO入試」の2極分化・混在状態

6

2. ほぼ出尽くした論点 ～メリット、デメリットなど～

多くの人々が期待しているメリット

アドミッションポリシーが貫徹された評価尺度の多元化、選抜方法の多様化が妥当性を維持して実現。

- 真に適合的な人が選抜され、マッチングが最適化される
- 測定・評価の過誤が極小化される
- 受験技術や一部の認知能力に基づく偏った「能力信仰」をある程度中和できる？

多くの人々が直面しているデメリット

妥当性を欠く方法論や過大な負担を強いるやり方で評価尺度の多元化や選抜方法の多様化が強行され、結果の点検や、それに基づく改善もなされない。

- 出願・受験に係る負担の増大と、それを回避しようとする様々の対応行動の出現
- 入学後のミスマッチの多発
- 広範な不信感、嫌悪感の蔓延
- 不満足であっても、公平性の点で合意が形成されやすい受験技術や一部の認知能力に基づく偏った「能力信仰」の合理化

9

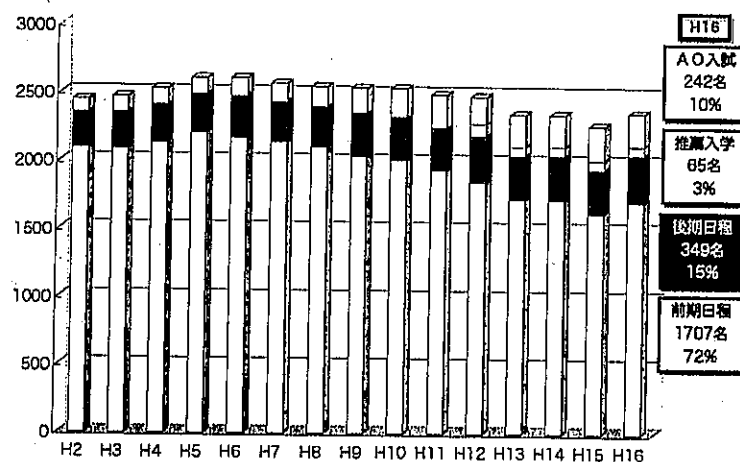
3. 東北大学のAO入試

アドミッション・ポリシー

本学の理念 世界のトップクラスの研究センター大学として、人間性を尊重した科学技術の発展、倫理に根ざした政治経済社会の構築、自然環境との共生という21世紀の人間社会の課題に大きく貢献します。	本学の特徴 1. 研究第一主義・門戸開放 2. 大規模総合大学 3. 研究センター大学 4. 積極的な地域連携・産学連携 5. 魅力的な所在地（杜の都・学都）	求める学生像 1. 21世紀の人間社会の課題に 研究者 として貢献する学生 2. 豊かな学識とリーダーシップを備える 高度な職業人 として社会に寄与する学生
--	---	---

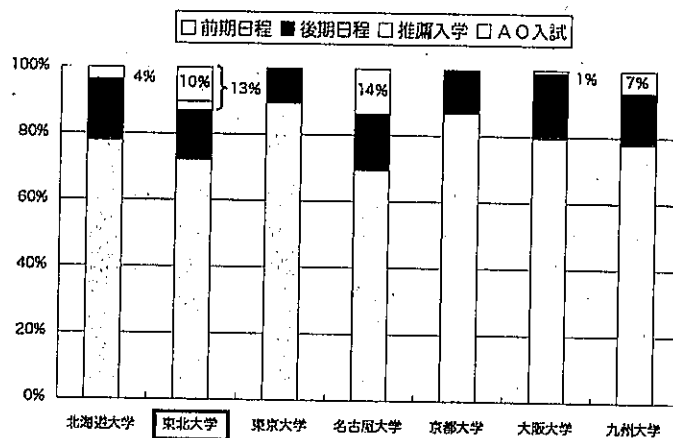
11

一般選抜、推薦入学との関係



12

選抜区分の構成比の大学間比較



13

本学のAO入試・推薦入学の系譜

学部選抜区分	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8	H7	H6	H5	H4	H3	H2
法学部	AO入試II期	20	20												
経済学部	推薦入学I	15	15	15	15										
	推薦入学II	30	30	30	30	30	30								
理工学部	AO入試II期	37	37	37	37										
	推薦入学I					37	35	33	33						
歯学部	AO入試III期	10	10	10	10	10									
薬学部	推薦入学I	10	10	10	10	10									
	AO入試I期	--	14	14	14	14									
	AO入試II期	75	75	75	75	75									
	推薦入学I						75	50	50	50	35	35	20	20	20
工学部	AO入試III期	100	100	100	100	100									
	推薦入学II						100	100	100	100	100	100	97	95	93
	AO入試IV期	--	--	--	--	--									
	外国在外子女						--	--	--	--	--	--	--	--	--
農学部	推薦入学I	10	10	10	10										
合計		307	321	301	301	291	240	213	183	150	135	135	120	117	93

14

ことさら奇抜さを追求しない選抜方法 ～ Authentic & Orthodox ～

選抜の種類	実施学部	対象者		募集人員	出願書類	主な選抜指標				備考
		新卒	既卒			センター試験	小論文試験	面接試験	健康診断	
AO入試Ⅰ期	工学部	●	●*1	若干人	●	—	●	●	●	・合格時の入学要件
AO入試Ⅱ期	法学部	●	—	20	●	—	●*2	●	●	・学習成績評価：A ・合格時の入学要件
	理学部	●	—	37	●	—	●*3	●	●	・学習成績評価：A ・合格時の入学要件
	工学部	●	—	75	●	—	●	●	●	・学習成績評価：A / 推薦率10%以上 ・合格時の入学要件
AO入試Ⅲ期	歯学部	●	—	10	●	●	—	●	●	・合格時の入学要件
AO入試Ⅳ期	工学部	●	●	100	●	●	●	●	●	・合格時の入学要件
AO入試Ⅴ期	工学部	●	—	若干人	●	—	●	●	●	・合格時の入学要件 ・10月入学
推薦入学Ⅰ	経済学部	●	—	15	●	—	●	●	●	・学習成績評価：A ・推薦人員は2名/校 ・合格時の入学要件
	薬学部	●	—	10	●	—	—	●*4	●	・学習成績評価：A ・推薦人員は1(2)名/校 ・合格時の入学要件
	農学部	●	—	10	●	—	—	●*4	●	・推薦人員は1(2)名/校 ・合格時の入学要件
推薦入学Ⅱ	経済学部	●	●	30	●	●	—	—	●	・合格時の入学要件

*1：高校卒業後4年以上経過者。*2：第1次選抜に使用。*3：適性試験。*4：事前に小論文を提示。

15

きめ細かい広報活動

- ・ 本学主催『AO入試・推薦入学説明会』
 - － H16は、札幌、青森、盛岡、秋田、仙台、山形、郡山、水戸、宇都宮、高崎、静岡、富山、新潟、長野、那覇で開催予定（15会場）
- ・ 個別高校訪問
 - － 全国の45高校（H15年度実績）
- ・ 外部主催説明会
 - － 18の企画に参加（H15年度実績）
- ・ 高校への講師派遣
 - － 33高校（H15年度実績）

16

合格決定後，入学までの処遇

- 工学部の入学前教育は，本学における先進事例であり，非常にうまくいっている。
- 合格者，合格者の在籍高校のいずれからも好評である。



指定等論者：赤平有希さんのお話

17

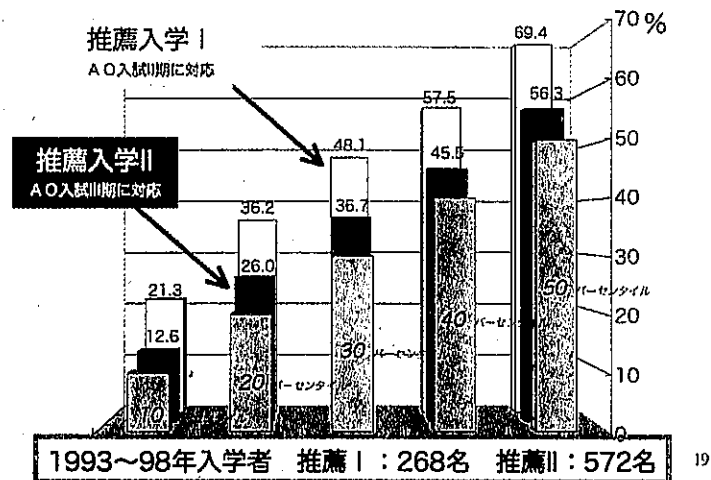
入学後のサポート

～ＡＯ入試Ⅰ期（工学部）入学者の事例～

- 社会人学生
 - － 対象者：高校卒業後４年以上経過した者
- 主な困難点
 - － 数学，物理学，語学
 - － キャンパスでの違和感，孤独感
- 主な支援内容
 - － ＴＡによる学習支援
 - － 研究室への「仮配属」による興味関心の維持
 - － ＡＯ入試Ⅰ期生同士のネットワーク作りを支援

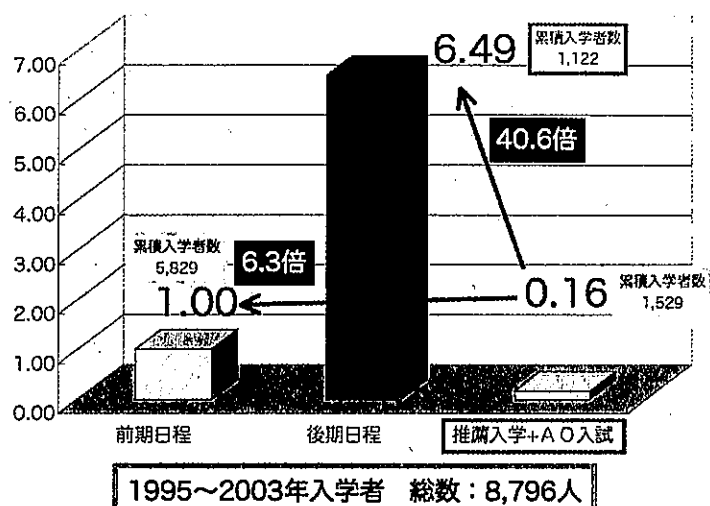
18

入学者の追跡調査 ～学業成績はどうか（工学部の場合）～



19

入学者の追跡調査 ～初期適応（1年次の休・退学）の状況（工学部の場合）～



20

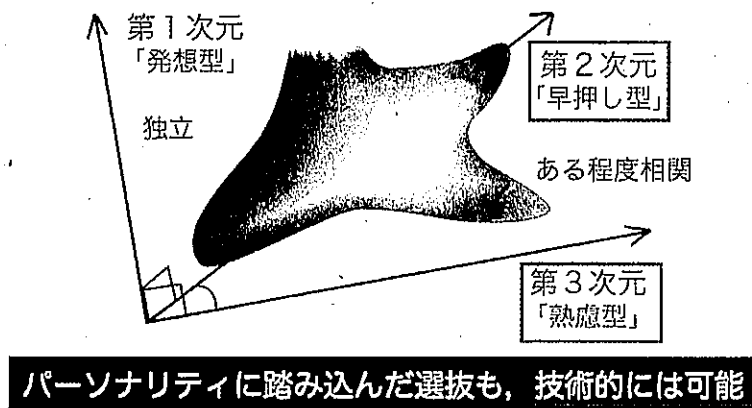
4. ペーパー試験主体の 一般選抜との対比

信頼性, 妥当性, 公平性, コストパフォーマンスの問題 AO入試に限った問題ではない

- 全選抜指標のテスト理論的裏付けが必須
 - データの取得に様々な制約条件がつく
 - 「箱庭」的モデル研究はあまり役に立たない
- 高校側や受験者にも体感的・直感的なレベルでの信頼を得なければならない
- 具体的な実施可能性への配慮が重要
 - 利用可能な資源の査定
 - 新たに発生するコストの見積

22

適性の多面的評価は、どこまで拡張すべきものなのか？



23

新しいタイプの測定・評価法開発の必要性

- 入学後の適合性・生産性を基準変数とした確かな予測変数群の把握
- それらの予測変数の値を測定できる新しいテスト方法の開発
 - モジュール組み合わせ型の適応的なテスト構成法の開発
 - 投影的手法の採用
 - 評価者のトレーニング・プログラムの開発 など

24

5. 試行期間の終了，そして入試の主流となる時代の幕開け？

平成19年度入試以降の展開

～双極化の一層の進行か？～

- 「日本型AO入試」の亜型の更なる分化
- AO入試実施大学は間違いなく激増
- 伸びる芽を捉え，更に伸ばす工夫へのシフト
 - AO入試とカリキュラムの連動が強まるだろう
- AO入試のアクレディテーションの要求
 - AO入試間の差別化圧力が増大するだろう（希望的観測）

必要な条件整備とは？

- 専任スタッフ（教員・事務職員）を配置した
アドミッションセンターの設置
 - 継続的な情報収集/研究
 - 選抜方法の設計・評価
 - 接続全般のコンサルテーション
- アドミッションセンター間の連携・協力体制
の整備 ex. 『国立大学アドミッションセンター連絡会議』
- 選抜方法改善のための研究体制の整備
 - 学会的機能の強化

ご清聴ありがとうございます